

研究奨励賞	旅と共に続く遠方銀河の研究	札本佳伸	74
欧文研究報告論文賞	近赤外線での順モデリング法を用いた精密視線速度測定 平野照幸・IRD 装置チーム		82
EUREKA	ほやけた像から本来の姿へ 画像逆畳み込み法の天文学応用	酒井優輔・山田真也	91
日本天文遺産	天文遺産紹介～三鷹 200 MHz 太陽電波望遠鏡	西村淳	99
天文教育普及賞	天文シミュレーションソフト「Mitaka」の開発ヒストリー ～20余年の歩み～	加藤恒彦	102
シリーズ：天文学者たちの昭和 日江井榮二郎氏ロングインタビュー 第11回：萬法すすみて自己を修証する			
		高橋慶太郎	111
シリーズ：海外の研究室から テーブルマウンテンの麓から South African Astronomical Observatory/University of Cape Town 反保雄介			
			121
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>IAUS 397, "UniversAI: Exploring the Universe with Artificial Intelligence"</i> 大久保宏真		125
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>European Astronomical Society Annual Meeting 2025 (EAS2025)</i>	札本佳伸	126
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Hinode-18/IRIS-16 meeting</i>	内藤由浩	128
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Hinode-18/IRIS-16 meeting</i>	大津天斗	130
月報だより・寄贈図書リスト			132

【表紙画像説明】

(上図) ジェームズウェップ宇宙望遠鏡により撮影された赤方偏移 0.73 (約 65 億年前) の銀河「ドラゴン」。銀河団エイペル 370 によって引き起こされる重力レンズ効果により、その見た目が長く引き伸ばされている。(下図) 「ドラゴン」の左側の領域で、1 年おきの 2 回の観測の比較を行った拡大図。2022 年に映っていた点源が 2023 年の観測では見えなくなっている、また反対に新たに現れる点源も存在している。それぞれが、マイクロレンズ効果により現れては消える赤方偏移 0.73 の銀河中の恒星を捉えている。実線の半十字および破線の半十字が 2022 年および 2023 年のみにみられる重力レンズされた恒星の位置を示している。

【今月の表紙デザイン】

1 月は「初日の出」です。お雑煮を海に見立てて、日が昇ってきた様子を描いています。365 日、日は昇りますが、新しい年のスタートと重なって、より特別に感じられます。皆さまの一年が素敵なものになりますように！